平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	28	都道府県・指定都市名	兵庫県
学校名（生徒数）	兵庫県立龍野北高等学校(792 人)		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：兵庫県たつの市新宮町芝田 125 - 2
電話番号：0791-75-2900
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：www.hyogo-c.ed.jp/~tatsunokita-hs/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：４高等学校
○研究対象教科等：看護科
○研究のキーワード：自主性，主体性，看護実践能力，アクティブラーニング，社会人基礎力
○研究成果のポイント：

① 校内演習指導にアクティブラーニングの手法を用いることにより，生徒の自主性・主体性が高まった。
② 臨地実習における教員や実習指導者の意図的な関わりによって，生徒の自主性・主体性が高まった。
③ 自主性・主体性を伸長することにより，看護実践能力（看護師として生きる力）を向上させることができた。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

看護実践能力を養うための，自主性・主体性を育てる指導方法の工夫改善についての研究
－統合実践実習に視点をあててー

（２）研究主題設定の理由

近年の生徒は「さとり世代」といわれ目立ちたがらない，高望みをしない，過程よりも結果を重視するなどの特徴を持っている。

本校の生徒は全般に優しく素直な性格で強い使命感を持ち，ひとつひとつの課題に丁寧に取り組む真面目さを持つ半面，生活体験や社会経験に乏しく，自ら学ぶ力や物事を統合的に考える力が弱いという特徴がある。

そこで，実習前の講義や演習の段階から自主性・主体性を高める工夫・改善を行い，臨地実習の指導と評価を一体化することで自主性・主体性が高まれば，看護実践能力が向上するという仮説を立て，今回の研究に取り組むことにした。

（３）研究体制

新教育課程実施に基づいた職員研修等に加えて，照林社や日総研主催の研修会に参加し学びの共有化をはかるなど，更に実践的で効果的な研修を行う。

平成25年度については，校内で研究グループを編成し研究を進め，近隣の大学教員に研究の指導を受ける。

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年	５月　研究グループを編成し，研究主題や研究内容方法について検討 「自主性・主体性」に関する文献検索・検討，調査・研究計画書の検討・作成 ６月　質問紙におけるアンケートの検討と作成

度	7月　各種研修会に参加 看護の統合と実践「臨床看護総論Ⅱ」の指導内容について検討 8月　兵庫県看護協会に倫理審査申請書の提出 9月　事前アンケート調査，「統合実践実習」の指導内容の工夫検討 10月　看護の統合と実践「臨床看護総論Ⅱ」の校内演習実施 11月　学校訪問指導（研究授業），校内演習後質問紙におけるアンケート調査 「統合実践実習」を指導案に基づき実施 12月　「統合実践実習」実施後，質問紙におけるアンケート調査，データの分析 半構成的面接におけるインタビューの実施，データの分析 1月　研究のまとめ

（5）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

① 専攻科全教員が初めから授業や演習に参加し，共通理解を行なった。

② 患者役は教員がおこない，リアリティのある患者設定や環境設定を工夫した。

③ 患者からの質問形式で，疾患や治療内容などに関する学習をさせ，演習の中で生徒の理解度を確認した。

④ 計画した看護ケア及び突発的な事象を生徒全員に体験させた。

⑤ グループワークや演習を多く取り入れ生徒主体の授業方法を工夫した。

⑥ 生徒が立てた計画を活かしながら演習をおこなった。

【研究成果とその意義等】

（1）研究成果

① グループワークを多く取り入れ，リアリティのある校内演習を工夫した。その結果、例えば突発事象で患者役の教師がベッドから転落した時，最初の生徒は棒立ちだったが，次に経験した生徒はすぐに報告に行った。さらに演習を重ねた生徒はすぐに患者の側に行って患者の側を離れず，ナースコールで報告を行った。このように、一日の中でも生徒の成長を感じられた。

② 校内演習において上記のような工夫を行うことにより，演習後の「自主性を問うアンケート」の結果が演習前のものに比べ大きな伸び率を示し，教員の意図的なかかわりが生徒の自主性に影響していることが明らかになった。

③ 教員や指導者のどのような関わりが生徒の自主性を高めたかを調査するために，半構成的面接によるインタビューを実施した。現在、その分析を行っているところである。

（2）研究成果の意義等

校内演習の教員の意図的な関わりが，生徒の自主性・主体性の育成に対してよい結果をもたらし，必要な関わりであることがわかった。この関わりを臨地実習で継続したことが，どのように生徒の精神面に影響したかを，今後，半構成的インタビューで検証する。

自ら学び自ら考える力を持った生徒を育成するため，他の臨地実習でも教員や指導者の関わりを工夫することが大切であり，看護実践能力の向上に繋がると期待している。

（3）指定期間終了後の取組

① 「臨床看護総論Ⅱ」の校内演習を統合分野以外の校内演習も充実させる。

② 「統合実践実習」以外の臨地実習の学習指導案を作成する。

③ 高校課程における臨地実習の評価について検討と見直しを行う。